

令和5年度 自己評価・学校関係者評価書(結果公表シート)

海の星鷺の宮幼稚園 令和6年3月14日

幼稚園の教育目標

心情豊かな優しい子ども 自分で考え行動できる子ども 元気に活動するたくましい子ども

1、本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- ① 保育者の質の向上と、教育理念に基づいた教育の提供をするための工夫、研修を行う。
- ② ひとり一人の子どもと向き合い、寄り添いながら、自分のことが好きな子どもを育てる。
- ③ 満3歳児保育の充実と子育て支援を積極的に行う
- ④ 閉鎖された雰囲気や気持ちを打破できるような行事を取り入れ、様々な交流を図る。

2、評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	結果	理由	学校関係者評価
1	保育の計画性	A	コロナが5類に分類されたことで、様々な行事、活動を活発に行うことができた。保護者参加型の行事を作ったり、参加できる人数を増やしたりした。ここ数年の間、コロナ禍が続いたためにセーブしていた活動を再開し、子どもたちの経験値をあげることができた。また、教職員の働き方改革も意識し、準備等を計画的に行うことを意識した。	A
2	保育のあり方 幼児への対応	B	一人ひとりの傾向や特徴にあった対応を心掛けた。臨床心理士によるソーシャルスキル研修をもとに、子どもを理解することを大切にしてきた。子どもをより総合的に見るようにすると共に、必要な情報を保護者に伝える心がけた。が、十分とは言えない。	A
3	教師としての資質、能力、 良識、適正	B	新任2人を迎え、2年目の3人と共に丁寧な指導を心がけた。が、日々の業務に追われ、自己研修ができにくい状況は続いている。	B
4	保護者への対応	B	連絡帳、電話、コースで会った時など、保護者の方とコミュニケーションをとる努力をしてきたが、また、保護者の方が相談しやすい場を、もっと増やしていく必要性を感じる。	A
5	地域の自然や社会との かかわり	C	自然とかかわりは全職員の課題として挙げられている。	C
6	研修と研究	B	研修には可能な限り、参加している。が、それを頼教職員とわかちあったり深めたりする余裕がない。	B
7	外部アンケート	A	園児ひとり一人を大切に、そしてそれぞれの保護者様の気持ちに寄り添うことを心掛けてきた。	A

* 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が十分に出ない D 取り組みが不十分

4、本年度の重点課題の総合的な評価結果

コロナ禍が続き、遮断された世界を広げていくことに重点を置いた1年となった。園児の実体験を大切にしたいと考え、できるだけ保育の中で本物に触れる機会を多く持つようにした。また、縦割り保育を多く持ち、お互いが刺激をもらい、支えあう場をつくった。保護者のかたとの交流も深めたいと考え、運動会の競技に親子で行う種目を増やしたり、年度初めには予定のなかった参観会も行った。が、保護者の方の相談相手に慣れたのか、園として十分な情報を提供できたのかについては、今後も検討していく必要があると思われる。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
地域（自然）との関わり	<ul style="list-style-type: none">・園外保育等を実現可能なことを模索していく。・職員の苦手意識を減らしていく。
教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none">・それぞれの得意分野を生かし、研修できる環境を整える。・発達がゆるやかな子どもへの対応方法を学ぶ。・時間的、精神的な余裕を持てるよう業務を見直す。
保護者との関わり	<ul style="list-style-type: none">・園から、保護者に対して、積極的に声をかけていく。・保護者の方が話しかけやすい環境、機会を更に増やすよう努める。・おうちえん、ホームページの充実を図る。

6、学校関係者評価委員からのコメント

コロナは明けましたが、まださまざまな制限の中、子ども達の安全を第一に考え、日々保育、行事に取り組んでいただけました。行事は復活しましたが、日々の様子がわかるように、おうちえん、ホームページがより充実すると嬉しく思います。